

2. 阿賀野市消防本部のあゆみ

昭和48. 4. 1 水原郷消防組合発足、構成町村 水原町、安田町、笹神村、京ヶ瀬村、組合管理者に水原町長佐藤貞太郎就任（消防長事務取扱）水原郷消防職員として水原町退職者23名、安田町退職者6名、笹神村退職者3名を採用。新採用20名を含め常勤職員総員52名となる。

旧水原町消防庁舎を利用し消防本部・署を設置、消防自動車2台、救急車1台、指令車1台、署員33名、旧安田町消防本部を利用し安田分遣所を設置、消防車1台・救急車1台署員7名、旧笹神村消防団本部を利用し笹神分遣所を設置、消防車1台、署員6名、旧京ヶ瀬村農業共済組合事務所を利用し京ヶ瀬分遣所を設置、消防車1台、署員6名。以上の体制で発足した。

昭和48. 4. 1 阿賀野川総合運動場を阿賀野川総合運動場協議会から当消防組合が引き継ぐ。

昭和48. 7. 1 本署27名、安田分遣所9名、笹神分遣所8名、京ヶ瀬分遣所8名の体制となる。

昭和48. 9. 軽連絡車1台購入本署に配置。

昭和48. 11. 2,000リットル入りタンク車1台購入、本署に配置。

昭和48. 12. 20 管理者水原町長佐藤貞太郎退職。

昭和49. 2. 7 笹神村長折笠信雄管理者（消防長事務取扱）に就任。

昭和49. 3. 指令車更新本署に配置。

昭和49. 3. 31 職員1名退職、実員51名となる。

昭和49. 4. 1 職員新採用8名、実員59名となる。

昭和49. 4. 笹神分遣所新庁舎鉄筋コンクリート造が落成し移転。

昭和49. 6. 軽連絡車1台購入安田分遣所に配置。

昭和49. 7. 1 本署31名、安田分遣所10名、笹神分遣所9名、京ヶ瀬分

遣所9名の体制となる。

- 昭和49. 9. 8 第25回県消防大会ポンプ操法競技大会ポンプ車の部で、
第3位入賞。（会場佐渡小木町）
- 昭和49. 10. 笹神分遣所消防車更新。
- 昭和49. 11. 21 本署消防車1台水原町消防団に返納。
- 昭和50. 4. 1 職員新採用1名、実員60名となる。
- 昭和50. 4. 阿賀野川総合運動場連絡車1台購入本署に配置。
- 昭和50. 4. 軽連絡車1台購入笹神分遣所に配置。
- 昭和51. 4. 軽連絡車1台購入京ヶ瀬分遣所に配置。
- 昭和51. 7. 機材積載車1台購入本署に配置。
- 昭和51. 10. 8 日本損害保険協会から消防車（BD-I型）1台寄贈を受け本署に配置。
- 昭和52. 3. 31 職員1名退職、実員59名となる。
- 昭和52. 4. 1 職員新採用1名、実員60名となる。
- 昭和53. 3. 31 職員1名退職により本署29名、安田分遣所10名、笹神分遣所10名、京ヶ瀬分遣所10名体制の実員59名となる。
- 昭和53. 4. 1 新発田広域消防と消防相互応援協定締結。
- 昭和53. 5. 12 安田局119番を本部へ移転。指令卓への組込は、6月5日。
- 昭和53. 7. 23 二市北蒲原地区支会ポンプ操法競技会、署ポンプ自動車の部で優勝。（会場 豊栄市）
- 昭和53. 8. 20 第29回県消防大会操法競技大会署ポンプ自動車の部で優勝。（会場 六日町）
- 昭和54. 3. 31 水原郷消防組合解散。
- 昭和54. 4. 1 阿賀北広域組合発足。
組合構成団体に豊栄市も含まれることとなったが、消防に関しては従来通り。
組合管理者に水原町長吉川正夫就任、消防長に小林正巳が就任した。

消防施設、消防態勢は旧水原郷消防組合より継承。

- 昭和54. 11. 13 村松瓦斯水道株式会社から広報車1台の寄贈を受け本署に配置。
- 昭和55. 2. 5 日本自動車工業会から救急車（2B型）1台の寄贈を受け本署に配置。
旧救急車（A級）は予備車として運用。
- 昭和55. 4. 1 職員新採用2名、本署31名、安田分遣所10名、笹神分遣所10名、京ヶ瀬分遣所10名、実員61名となる。
- 昭和55. 4. 1 水原郷消防署救助隊発足。
- 昭和55. 7. 20 二市北蒲原地区支会ポンプ操法競技大会署ポンプ自動車の部で優勝。（会場 水原町）
- 昭和55. 10. 24 副管理者笹神村長折笠信雄任期満了退任。
- 昭和55. 10. 25 笹神村長五十嵐利彦副管理者に就任。
- 昭和56. 1. 1 職員1名死亡退職、実員60名となる。
- 昭和56. 3. 1 救急医療情報システム端末機設置により運用開始（県委託）
- 昭和56. 3. 31 職員1名退職、実員59名となる。
- 昭和56. 4. 1 職員新採用2名、実員61名となる。
- 昭和56. 7. 24 第10回消防救助技術東北指導会初出場。（会場 仙台市）
- 昭和56. 11. 30 防衛施設庁補助事業により消防ポンプ自動車（BD-I型）1台購入本署に配置。
- 昭和57. 3. 31 消防庁舎建設用地取得、造成工事完了（6,049㎡）。
- 昭和57. 6. 9 副管理者京ヶ瀬村長小林健司任期満了退任。
- 昭和57. 6. 10 京ヶ瀬村長米山俊彦副管理者に就任。
- 昭和57. 11. 22 消防庁、消防施設補助事業により消防ポンプ自動車（BD-II型）1台購入安田分遣所に配置。
- 昭和58. 3. 新消防庁舎竣工。
- 昭和58. 4. 15 新庁舎に移転、業務開始。

- 昭和58. 7. 12 新消防庁舎竣工式。
- 昭和58. 8. 消防庁舎舗装工事竣工。
- 昭和58. 9. 1 豊栄市と消防相互応援協定締結。
- 昭和58. 12. 消防庁舎消雪パイプ施設工事竣工。
- 昭和59. 7. 5 屋外訓練場張芝工事竣工。
- 昭和60. 5. 幼年消防クラブ、15クラブ発足。
- 昭和60. 8. 28 職員1名退職、実員60名となる。
- 昭和60. 10. 30 消防庁消防施設補助事業により消防ポンプ自動車
(CD- I 型) 1台購入、京ヶ瀬分遣所に配置。
- 昭和61. 4. 1 職員新採用1名、実員61名となる。
- 昭和61. 5. 幼年消防クラブ、7クラブ結成し22クラブとなる。
- 昭和61. 8. 25 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車(BD- I 型)1台
寄贈を受け本署に配置。
- 昭和62. 3. 31 職員1名退職、実員60名となる。
- 昭和62. 4. 1 職員新採用1名、実員61名となる。
- 昭和62. 5. 幼年消防クラブ、1クラブ結成し23クラブとなり、管内
の結成率100%となる。
- 昭和62. 8. 25 N T T 衛星通信119番設置。
- 昭和63. 6. 30 職員1名退職、実員60名となる。
- 昭和63. 8. 日本消防協会から救急車(2B 型) 1台寄贈を受け本署に
配置。旧救急車は予備車として運用。
- 平成元. 3. 31 職員2名退職、実員58名となる。
- 平成元. 4. 1 職員新採用4名、実員62名となる。
- 平成元. 5. 1 職員新採用1名、実員63名となる。
- 平成 2. 1. 1 水原郷幼少年婦人防火委員会結成。
- 平成 2. 2. 23 防衛施設庁補助事業により水槽付消防ポンプ自動車
(水Ⅱ型) 1台購入本署に配置。
- 平成 2. 3. 31 職員2名退職、実員61名となる。

- 平成 2. 4. 1 職員新採用2名、転出1名、実員62名となる。
- 平成 2. 7. 1 安田分遣所配置の日本赤十字社救急車（2B型）更新。
- 平成 2. 8. 1 指令車更新。
- 平成 2. 9. 1 新潟県・水原郷総合防災訓練を当管内において実施。
- 平成 3. 3. 31 職員1名退職、実員61名となる。
- 平成 3. 4. 1 職員新採用4名、実員65名となる。
- 平成 4. 3. 31 職員1名退職、実員64名となる。
- 平成 4. 4. 1 定員72名、職員新採用4名、実員68名となる。
- 平成 5. 4. 1 定員78名、職員新採用5名、実員73名となる。
- 平成 5.12.16 消防庁消防施設補助事業により救助工作車1台購入、本署に配置。
- 平成 5.12.20 管理者水原町長吉川正夫任期満了退任。
- 平成 5.12.21 水原町長五十嵐雄介管理者に就任。
- 平成 6. 3. 31 職員2名退職、実員71名となる。
- 平成 6. 4. 1 定員78名、職員新採用6名、実員77名となる。安田分遣所19名体制となる。
- 平成 6. 7. 1 磐越自動車道供用開始に伴い、安田分遣所に高速救急隊発足。
- 平成 6. 7. 19 磐越自動車道消防相互応援協定、締結。
- 平成 6.12.13 高速救急隊用救急車(2B型)1台更新、安田分遣所に配置。
- 平成 7. 3. 22 防衛施設庁補助事業により消防ポンプ自動車（CD-I型）1台購入、笹神分遣所に配置。
- 平成 7. 3. 31 副管理者笹神村長五十嵐利彦任期満了退任。
- 平成 7. 3. 31 職員4名退職、実員73名となる。
- 平成 7. 4. 1 定員78名、職員新採用4名、実員77名となる。
新潟県消防防災ヘリコプター応援協定、締結。
- 平成 7. 4. 24 笹神村長佐藤一字副管理者に就任。
- 平成 8. 2. 消防庁消防施設補助事業により、消防緊急通信指令施設

設置。

- 平成 8. 3. 消防庁及び県消防施設補助事業により高規格救急車（2B型）1台購入、本署に配置。
- 平成 8. 4. 連絡車 1 台更新、本部に配置。
- 平成 8.11.11 東蒲原広域消防組合との消防相互応援協定、締結。
- 平成 9. 3. 消防ポンプ自動車（CD-I 型、900 L 水槽付）1台更新、安田分遣所に配置。
- 平成 9. 3.31 職員2名退職、実員75名となる。
- 平成 9. 4. 1 定員78名、職員新採用3名、実員78名となる。
- 平成10. 3.20 職員1名死亡退職、実員77名となる。
- 平成10. 4. 1 定員78名、職員新採用1名、実員78名となる。
- 平成10. 8. 3 安田分遣所配置の日本赤十字社救急車（2B型）更新。
- 平成10. 9.25 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（CD-I 型）1台寄贈を受け本署に配置。
- 平成12. 3.31 職員1名退職、実員77名となる。
- 平成12. 4. 1 定員78名、職員新採用1名、実員78名となる。
- 平成12. 5. 2 五泉市消防本部と「ホテルさきはな」における消防業務について覚書締結。
- 平成13. 3. 8 消防ポンプ自動車（CD-I 型）1台更新、京ヶ瀬分遣所に配置。
- 平成13. 3.31 職員1名退職。実員77名となる。
- 平成13. 4. 1 京ヶ瀬分遣所、新庁舎移転、業務開始。
- 平成14. 9.28 新潟県消防長会主催、新潟県消防職員駅伝大会を当本部管内を会場に実施。優勝は五泉市消防本部。
- 平成15. 8. 9 職員1名死亡退職、実員76名となる。
- 平成16. 3. 防衛施設庁補助事業により水槽付消防ポンプ自動車（水-II 型）1台更新、本署に配置。
- 平成16. 3. 財団法人日本消防協会から指令車1台寄贈を受け本部に

配置。

- 平成16. 3. 31 職員1名退職、実員75名となる。
- 平成16. 4. 1 阿賀野市消防本部となり、定員85名、消防職員75名・事務職員3名(消防団事務担当)、計78名体制となる。
- 平成16. 11. 30 職員1名退職、実員77名となる。
- 平成17. 3. 24m級はしご車1台導入、本署に配置。
- 平成17. 3. 31 職員1名退職、実員76名となる。
- 平成17. 4. 1 定員85名、職員新採用4名、実員80名体制となる。
- 平成17. 8. 4 安田分遣所配置の日本赤十字社救急車(2B型)更新。
- 平成18. 3. 31 職員2名退職、実員78名となる。
- 平成18. 4. 1 定員85名、職員新採用2名、実員80名体制となる。
- 平成19. 3. 31 職員1名退職、実員79名となる。
- 平成19. 4. 1 定員85名、職員新採用2名、実員81名体制となる。
- 平成19. 9. 10 指令車(指令2号車)・広報車(指令3号車)老朽化のため廃車。
- 平成20. 4. 1 定員85名、職員新採用3名、実員84名体制となる。
- 平成20. 7. 29 職員1名退職、実員83名となる。
- 平成20. 10. 28 消防庁消防施設等整備費補助事業・緊急消防援助隊設備整備事業補助により高規格救急車更新・本署に配置。
前高規格救急車は、安田分遣所に配置。
- 平成21. 3. 10 高規格救急車更新により、旧2B型救急車を朱色全面塗装して広報車(指揮後方支援車)として運用開始。
- 平成21. 3. 31 職員1名退職、実員82名となる。
- 平成21. 4. 1 定員85名、職員新採用3名、実員85名体制となる。
- 平成21. 12. 31 職員1名退職、実員84名となる。
- 平成22. 3. 31 職員4名退職、実員80名となる。
- 平成22. 4. 1 定員85名、職員新採用5名、実員85名体制となる。
- 平成23. 1. 31 職員1名退職、実員84名となる。

- 平成23. 3. 1 防衛施設庁補助事業により、消防ポンプ自動車
(CD-I型) 1台更新、笹神分遣所に配置。
- 平成23. 3. 31 職員6名退職、実員78名となる。
- 平成23. 4. 1 定員85名、職員新採用5名、実員83名体制となる。
- 平成23. 4. 20 消防救急デジタル無線基本設計(電波伝搬調査等)業務
委託。
- 平成23. 8. 31 職員1名退職、実員82名となる。
- 平成23. 10. 13 消防緊急通信指令装置更新。
- 平成24. 3. 8 消防救急デジタル無線実施設計業務委託。
- 平成24. 3. 26 緊急消防援助隊設備整備費補助事業により、救助工作車
(II型)1台更新、京ヶ瀬分遣所に配置。
- 平成24. 3. 31 職員1名退職、事務職員1名異動、実員80名となる。
- 平成24. 4. 1 定員85名、職員新採用2名、実員82名体制となる。
- 平成24. 6. 26 消防機能再編事業基本・実施設計業務委託。
- 平成25. 3. 31 職員5名退職、実員77名となる。
- 平成25. 4. 1 定員85名、職員新採用5名、実員82名体制となる。
- 平成25. 4. 1 消防救急デジタル無線運用開始。
- 平成26. 3. 31 職員6名退職、実員76名となる。
- 平成26. 3. 31 署所再編によって、安田分遣所、笹神分遣所及び京ヶ瀬
分遣所の3分遣所を廃止。
- 平成26. 4. 1 定員85名、職員新採用6名、実員82名体制となる。
- 平成26. 4. 1 かがやき分署新庁舎業務開始。1本部1署3分遣所から1本
部1署1分署となり消防本部・消防署54名、かがやき分署
28名の体制となる。
- 平成26. 4. 1 高規格救急車1台更新、かがやき分署に配置。
- 平成26. 10. 10 職員1名退職、実員81名となる。
- 平成27. 2. 1 消防庁緊急消防援助隊設備整備補助事業により、消防ポ
ンプ自動車(CD-I型)1台更新、本署に配置。

- 平成27. 2. 総務省所管に属する物品の無償貸与事業により、救助資
機材搭載型消防ポンプ車1台借受、消防団安田常備分団に
配置。
- 平成27. 2. 26 防衛省防衛施設周辺民生安定施設整備事業により、高規
格救急車1台更新、本署に配置。
- 平成27. 3. 31 職員2名退職、実員79名となる。
- 平成27. 4. 1 定員85名、職員新採用5名、実員84名体制となる。